

進捗状況の概要 【1ページ以内】

平成25年度は、翌年度から始動する学生交流の基盤整備として、①リサーチ、②ネットワーク形成、③事務体制の確立、④パイロットプログラムの実現を行った。11月に、チェンライ大学（タイ）で開催された第6回AIMSレビューミーティングへ参加し、パートナー校に本プログラムの概要を説明するとともに、各校の英語講義科目の整備状況について改めて確認した。12月から翌年1月にかけては、全コア・パートナー校に教職員を派遣し、本プログラムへの協力を求め、1月末に開催予定の第1回合同教職員会議への出席を依頼した。また、2～3月に予定しているパイロットプログラムの実施についての打診も行った。1月末には本学にて**第1回合同教職員会議を開催**し、全コア・パートナー校から教職員を招聘し意見交換を行った。全パートナー校が初めて一同に集まる機会となり、その後のネットワーク構築の足掛かりとなった。また、アカデミックカレンダーの詳細・単位換算スケールの確認・協定書の文言調整等について、緻密な情報交換をすることができた。2月には、**職員3名を雇用し事務局を開設し、パイロットプログラムの参加学生合計30名（マラヤ大学：9名、デ・ラ・サール大学：6名、ブルネイ・ダルサラーム大学：15名）を約1週間派遣した。**また、3月にはホームページを開設し、派遣学生募集の広報を開始した。

平成26年度は、5月に本学在学学生対象の**留学フェアにて本プログラムを紹介し、秋学期に派遣する学生の募集を行った。**並行して、全学部に対し派遣学生の募集について協力を要請し、**目標通り秋学期に派遣する25名の学生（マラヤ大学8名、インドネシア大学3名、チュラーロンコーン大学3名、タマサート大学3名、デ・ラ・サール大学3名、ブルネイ・ダルサラーム大学5名）を確保した。**6～8月にかけては、**事前学習としてASEAN諸国の現地語及び文化を学習する講座を開設し、全派遣学生の参加・履修を義務付けた。**事前学習終了後には学生の派遣を開始した。一方で学生の受入に関しては、8月に**アソシエート・パートナーとして、ビーナス大学（インドネシア）及びウタラ・マレーシア大学（マレーシア）を追加し、秋学期に試験的に10名の学生（マラヤ大学3名、インドネシア大学4名、ブルネイ・ダルサラーム1名、ビーナス大学1名、ウタラ・マレーシア大学1名）の受入を行った。**宿舍の手配、区役所への引率、到着後の各種オリエンテーション、**パディシステムの導入をはじめ、様々な受入支援を行った。**10月には、本プログラム用の**Facebookを開設し、情報発信機能を強化した。**10月の留学フェアにて再び広報を行い、第2期派遣学生の募集を開始した。また、平成26年度は本学において履修すべきカリキュラムの整備を行った。**マレー語及びフィリピン語について、非常勤講師を2名配置し、平成27年度からの開講に備えた。**平成26年度中に行ったプログラムの周知、全学部に対する協力依頼が結実し、全学的なプログラムの運営体制が安定した方向に向かっている。PRビデオの作成も完了し、**ホームページ・Facebook・YouTubeを通じて、情報配信を開始した。**平成27年1月には、本学で**第2回合同教職員会議を実施した。**第1期派遣学生による帰国後留学報告会を同時開催し、プログラムのさらなる充実と質保証について協議することができた。また、さらなる派遣学生の啓発・確保のため、2～3月にかけて、**ショートプログラムとして合計30名の学生（マラヤ大学17名、チュラーロンコーン大学及びタマサート大学13名）を約1週間派遣した。**3月には**第1期受入学生25名（マラヤ大学3名、インドネシア大学5名、チュラーロンコーン大学5名、タマサート大学1名、デ・ラ・サール大学5名、ブルネイ・ダルサラーム大学4名、ビーナス大学1名、ウタラ・マレーシア大学1名）が来日し、平成27年度に入り、本プログラム第1クールの完了に向けて目下事業を遂行している。**

【本事業における中間評価までの交流学生数の実績】

平成25年度				平成26年度			
受入		派遣		受入		派遣	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
0人	0人	0人	0人	0人	10人	25人	25人